Extension Lectures
医療講座

解説　産婦人科
小島 康嗣 医師

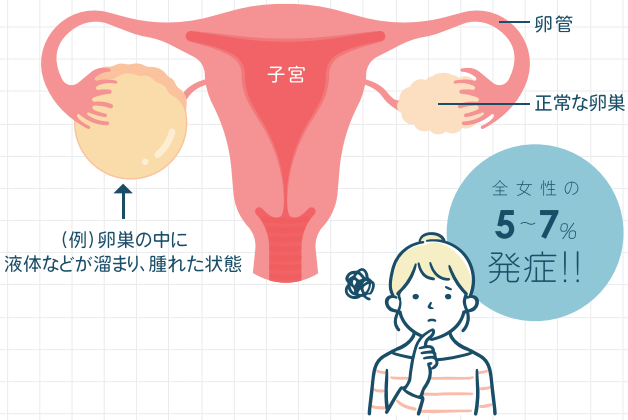
当院産婦人科サイトの 検索ワード上位↑ を記録

卵巣のう腫

卵巣のう腫って？

卵巣のう種は、**子宮の左右にある卵巣と卵管に発生する腫瘍（できもの・腫物）のことです。**体質や生活習慣に関わらず誰にでも起こり、女性であれば全年齢に発症することがある病気です。**全女性の5～7%に発症すると報告されています。**多くは、婦人科検診での内診や超音波検査で発見されますが、CT・MRI検査で偶発的に発見されることもあります。

また、精査目的にCT・MRI検査、必要に応じて採血検査を行うことがあります。**卵巣のう種のサイズや種類、症状にもよりますが、経過観察、薬物療法、手術のいずれかが必要なことが多いです。手術適応にならない卵巣のう種でも大きくなる可能性があるため、定期的な受診が必要です。**



Q&A　もしも卵巣のう種がみつかったら？

病気のキホンがわかる

Q：自然に小さく、または無くなることはありますか？

A：腫瘍様病変（月経周期によるもの、妊娠によるもの）は自然に小さくなることがありますが、その他の卵巣のう種は自然に小さくなることは少ないです。

Q：自覚症状は、ありますか？

A：無症状のことが多いですが、大きくなるにつれ下腹部痛や圧迫感を感じることがあります。茎捻転（けいねんてん）（ねじれること）を起こすと激しい腹痛が生じます。

Q：どんな治療が待っていますか？

A：6cmを超える卵巣のう種の場合、茎捻転や破裂のリスクが高いため手術を推奨しています。また内膜症性のう胞（チョコレートのう種）の場合、月経を調整する薬を使用することで縮小する可能性があるため、投薬の上で手術の要否を検討することがあります。年齢や妊娠希望の有無により、卵巣・卵管の摘出術か、卵巣のう種摘出術（卵巣を温存し、のう種部分のみ切除）かを決定します。

Q：妊娠に影響しますか？

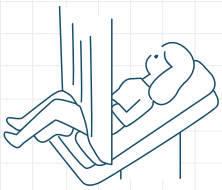
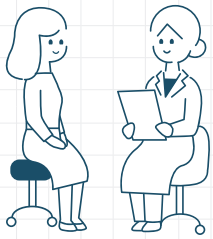
A：内膜症性のう胞は、癒着（炎症や創傷治癒により組織がくっついてしまうこと）を引き起こすため不妊の原因となることがあります。また、卵巣のう種摘出術の場合、卵巣は残存しますが正常部分への影響を100%回避することは難しく、術後の月経や妊娠に影響する可能性はあります。

Q：再発の恐れはありますか？

A：卵巣・卵管が残っている限り卵巣のう種再発のリスクはあります。術後も定期的なフォローや婦人科検診の受診が重要です。

当院では〈検査〉と〈治療〉が可能です

婦人科外来にて内診や経腟超音波の検査を行っています。必要に応じてMRI・CT検査や採血検査を行います。検査によって卵巣のう種がみつかったら、患者さんのご意見を伺いながら治療法を決定します。



手術は、卵巣・卵管の摘出術、卵巣のう種摘出術ともに対応しております。腹腔鏡手術が多いですが、腫瘍の大きさや手術歴などを考慮し、開腹手術を選択することもあります。当院は良性腫瘍にのみ対応しております。悪性が疑われる際には高次医療施設をご紹介いたします。